

人材養成目的

知識と情報の記録、蓄積、共有、加工、利用といった諸活動にかかわる様々な情報技術やその原理となる科学を理解し、それらを使いこなす「21世紀の創造を担う人材」を養成します。また、科学的、技術的な側面だけでなく、人間の知的活動や社会的・文化的基盤についても十分な知見を身につけることを目指します。

知識情報・ 図書館学類

College of Knowledge
and Library Sciences

学士(図書館情報学)

■ Bachelor of Arts in Library and Information Science

人材養成目的

知識や情報を活用する能力を育み、関連する社会制度と技術の専門教育を行います。これらの教育を通じて、知識資源の形成、加工、流通、利用の発展に寄与する専門家と人間、社会、技術にわたる総合的視野や問題解決能力を持った職業人を育成します。

求める人材

知識スペシャリストにふさわしい豊かな発想と表現力をもった人材、知識ゼネラリストにふさわしい論理的思考力とコミュニケーション力をもった人材を求めます。

卒業後の進路

知識資源の形成、加工、流通、利用に関する仕事はあらゆる職種に存在しており、本学類の卒業生は、知識スペシャリストとしてその力をいかんなく発揮しています。また、知識基盤社会を支えるには人間、社会、技術にわたる広い視野が不可欠であり、知識ゼネラリストの出番が増えています。さらに、知識共有現象は学問対象として魅力的であり、大学院に進んで研究者を目指す人もいます。

大学院進学 の例

- 筑波大学大学院…図書館情報メディア研究科、システム情報工学研究科、教育研究科
- 他大学大学院…東京大学、京都大学、広島大学、慶應義塾大学、イリノイ大学

就職先 の例

企業・団体

■マスコミ・出版…産業経済新聞社、技術評論社、廣済堂、東京書籍、凸版印刷、静岡第一テレビ、ジュビターテレコム

■情報・通信…NTTデータ、富士ゼロックスアドバンステクノロジー、ヤフー、ソフトバンク、新日鉄住金ソリューションズ、東邦システムサイエンス、ジャストシステム、日本電気航空宇宙システム、IDCフロンティア、NECソリューションイノベータ、KDDI、ラック、ドワンゴ、日本電子計算

■商社・流通…丸善、三省堂書店、日外アソシエーツ、ハピネット、岡谷鋼機、サンリオ

■運輸・旅行…JR東日本、朝日旅行、近鉄エクスプレス

■金融・保険…ゆうちょ銀行、日本生命、中央労働金庫、常陽銀行、北日本銀行、八十二銀行、千葉銀行、足利銀行、群馬銀行、筑波銀行、静岡銀行、商工組合中央金庫、茨城県信用組合

■電機・金属…日本電気、コニカ・ミノルタ、日立アプライアンス

■サービス…アクセンチュア、長大

官庁・自治体・図書館・学校等

外務省、青森県、秋田県、宮城県、茨城県、栃木県、東京都、神奈川県、大阪府、徳島県、さいたま市、川崎市、横浜市、静岡市、東北大学、茨城大学、筑波大学、千葉大学、一橋大学、東京大学、東京藝術大学、東京工業大学、静岡大学、新潟大学、長岡科学技術大学、名古屋大学、岐阜大学、滋賀医科大学、富山大学、九州大学、熊本大学、日本医科大学、帝京大学、聖マリアンナ医科大学、東邦大学、日本年金機構、日本音楽著作権協会、日本原子力研究開発機構、高エネルギー加速器研究機構、国立情報学研究所、講道館

教育の質の保証と改善の方策

教育の質の保証に関する考え方と方策

本学類は、無計画に修得単位数を増やすことよりも、受講する科目で高い到達度を得ることを期待しています。クラス担任や指導教員には、定期的に学生と面談することを義務づけ、学修指導にGPAを活用しています。初年度にはPROG (Progress Report On Generic Skills) テストを実施し、学生自身に強みや弱点を理解させ、大学での人間形成の方向性を考えさせています。3年次ではTOEICを受験させ、グローバル社会に備えさせています。

教員の教育力向上の方策

- 学生による授業評価を実施しています。
- 受講者数および成績分布の調査を実施しています。
- シラバスの内容を点検しています。

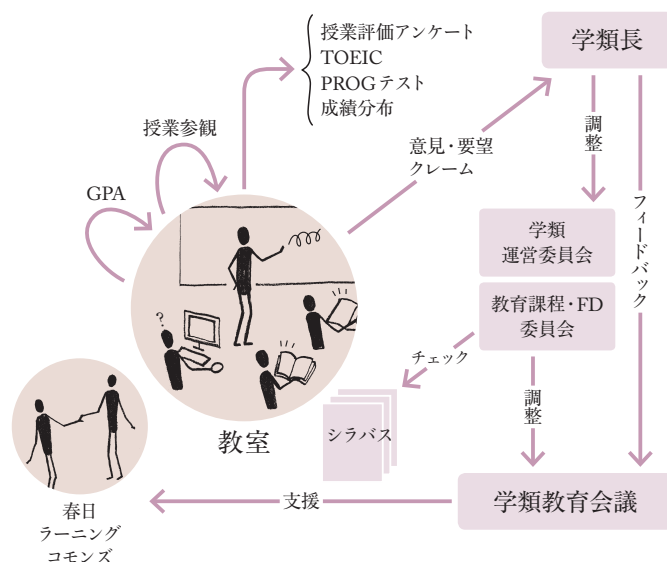
教育改善のための体制

教育課程・FDグループでカリキュラム全般に関する企画・実施を行っています。

カリキュラム改善の方策

教育課程・FDグループが中心となって、科目間の内容調整など、カリキュラムの内容の定期的な見直しを行っています。

学習環境の整備と教育力向上のサイクル



学士（図書館情報学）

Bachelor of Arts in Library and Information Science

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標及び本学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(図書館情報学)の学位を授与します。

■ 哲学、歴史、数理、情報など、文理にわたる幅広い基礎教養と社会に対する総合的視野を獲得していること

■ 人間が知識を伝達・共有する過程を哲学、社会学、情報学の観点から理解していること

■ 数量的に測るアンケート調査と数量では表すことのできない内容を扱う質的調査の双方の調査方法を理解し、分析する技術を修得していること

■ 電子書籍の作成や目録検索システムの開発など、情報資源を構築・管理・提供するための技術を修得していること

■ 多面的な情報検索スキルを有し、それを活用できること

■ 理解した知識をよりわかりやすく人に伝えるスキルを修得していること

■ 物事を多面的に眺め、文化の違いや価値観の違いを許容する姿勢を身につけていること

教育課程編成・実施の方針

学士(図書館情報学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

三つの主専攻に分け、知識科学主専攻では「人間」、知識情報システム主専攻では「技術」、情報資源経営主専攻では「社会」をキーワードに教育を行います。どの主専攻においても幅広い視野を養い、専門領域の内容に即して、人間、技術、社会・文化の結合と相互の役割を理解するための科目を展開します。

順次性に関する方針

1年次では、総合科目、外国語や体育などの基礎科目に加えて、知識情報、情報システム、情報社会と法制度などについての概論や、プログラミング演習、統計などの専門基礎科目を通して、基礎的知識や技術を学びます。2年次では、1年次に得た知識や技術をさらに深めていくため、主要なテーマごとに設定された講義と、技術を修得する知識情報演習などからなる専門基礎科目を履修します。3年次では三つの主専攻のいずれかに属して、専門科目を履修します。多様な視点を育成するため、所属する主専攻の専門科目だけでなく、他の主専攻の専門科目も履修することが要求されます。4年次では、研究室に所属して卒業研究を行い、論文を執筆します。

実施に関する方針

科目数を厳選し、その多くを必修とすることですべての学生が一定水準以上の文理融合型の基礎を身につけるよう配慮しています。各年次に必修として演習・実習を配し、応用的・実的な文脈で総合的に理解する仕組みを提供しています。また、図書館や企業における「インターンシップ」および海外研修科目として「国際インターンシップ」を実施しています。

特色

先輩が色々な相談にのってくれる「春日ラーニングcommons」を図書館情報学図書館に設置しています。ここでは履修計画の立て方、学生生活の過ごし方、授業で出された課題のヒント、レポートの書き方、図書館の使い方などが教えてもらえます。「組み込み技術キャンパスOJT」や「分野・地域を越えた実践的協働ネットワーク(enPiT)」ではシステム・ソフトウェア開発の実践的教育も受けることができます。

カリキュラムの構成

